

平成30年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>前年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶ目的意識を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 2 学校いじめ防止基本方針に基づき、すべてのいじめの根絶を図るとともに、情報モラルを向上させる。 3 キャリア教育の充実を図り、生き方や働き方について考え、自ら選択・決定することのできる力を育む。 4 ESD活動の実践を通し、地球規模の諸問題に対応できる資質と態度を養う。 5 「教員の多忙化解消プラン」に基づき、在校時間が80時間を超過している教員の割合を5%以下とする。 6 保護者・地域社会に対して情報発信を積極的に行うとともに一層の連携を図る。 		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>生徒指導 (生徒指導課)</p> <p>(2年学年会)</p> <p>(1年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの向上を図り、情報社会で適切に行動するための基となる考え方や態度を育てる。 ・活力ある学校生活を送らせ、こころ豊かな人間性を育む。 ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、担任指導、外部講師を始めとした各種講話等で情報モラルについて取りあげる。 ・アンケートによる意識調査を行い、その結果を基にして事例を示しながら意識の高揚を図る。 ・教育活動全体を通して、生徒が生き生きと取り組めるようにさせる。 ・朝学やHRなどを有効活用し、生徒のコミュニケーション能力を向上させ、こころ豊かな人間性を育む。 ・授業規律の確立と検定合格への意欲的な取り組み ・生徒指導課と連携し、遅刻者への指導・身だしなみ指導の徹底 ・部活動への積極的参加と学業との両立 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果では、殆どの生徒がSNSの危険性を理解できたと解答している。しかし、年間のNSによるトラブルの件数は増加してきている(昨年度3件、今年度10件)ので、今後も家庭と連携し、継続的な指導が必要であると感じている。 ・行事・HR等を通して生徒が主体的に取り組むことによって、コミュニケーション能力が向上し、活力ある学校生活を送ることができた。 ・室長会を定期的開催することで縦横の連携を強め、より積極的な学校生活を送れるように努める。 ・多くの生徒は落ち着いた学校生活を送れている。生徒指導課、学年、教科、顧問との連携をはかり、迅速に対応することができた。 ・部活動を変える生徒もいたが、2年生でも自身の成長になる活動を勧めたい。
<p>学習指導 (教務課)</p> <p>(経理科)</p> <p>(事務科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・協働的な学び」を意識した授業展開の充実 ・経理教育の充実と指導方法の研究 ・発展的なマナー教育と経理教育に対する効果的な指導方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会と連携し、アクティブ・ラーニングの展開事例を共有し、効果的な実践方法を検討する。 ・公開授業週間においては、教科や担当科目の枠を越えて、期間中1回は授業を参観し合い、多様な指導方法に触れる機会とする。 ・会計分野の内容について、理由を考えながら理解し、また会計情報を的確に読み取り、判断し、分析できる能力を育てる。 ・外部講師の活用により、会計分野に興味を持ち、意欲的に上級資格に取り組むことができるように、授業展開を工夫する。 ・講師招聘や連携教育を実施し、実務やマナーを習得させ、実践できる機会を数多く設定する。 ・経理教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の授業をベースに、講義型授業と参加型授業をバランスよく取り入れ、さらに学習活動がアクティブ化するよう、授業展開を意識する。 ・授業を参観し合うことで、自身の指導技術の向上と研鑽に努めることに主眼を置く。また、教科の特異性を知る機会としても活用する。 ・外部講師の活用により、興味関心を持って、意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・習熟度別展開による発展学習によって、難易度の高い上級資格に挑戦する生徒が増え、将来、経理の専門家を目指す生徒が増えた。 ・幅広い資格取得に取り組み、生徒個々の能力に対応した授業展開を実施することができた。また、受付や接待など接遇・マナーの実践の場を設け、外部講師による専門学校との連携教育も実施することができた。学校設定科目の授業展開を確立することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (情報処理科)	・情報リテラシー教育の充実	・各科目においてアクティブ・ラーニングを積極的に導入し、知識の定着をはかるとともに、情報リテラシー能力を育成する授業展開に努める。 ・小学科委員会を活用し、各学年・分掌と協力を密にする。	・各考査において知識を問う問題に加え、情報リテラシー能力の向上につながる問題を取り入れる。 ・今年度の取り組みが継続できるよう、小学科委員会でのコンセンサスを形成する。
(国際ビジネス科)	・ESDの視点を取り入れた国際教育活動を実践する。	・国際的なESD活動を学び、国際理解を深める。 ・企業や外部団体との連携を深め、実践的な教育活動を展開する。	・外国人講師による外国語の授業展開を実践し、興味・関心を持たせる。
(図書課)	・図書館の利用促進とデータベース化	・生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心がける。 ・図書についてパソコンを利用したデータベース化を完了させる。	・広報活動に努めたが、図書の貸し出し数が減少してしまったので、更なるPRに努めたい。 ・図書委員を積極的に活用し、データベース化を完了することができた。
進路指導 (進路指導課)	・「自分で決めました」と言える進路選択の実現を目指す。	・「大学展」「夢のマッチングフェア」「卒業生による企業説明会」などを活用し、企業・学校の情報を手に入れる機会をもたせる。 ・「気になるチェックシート(調べ学習)」をとおして、相談室の資料(就職四季報・業界図鑑・大学の實力など)の活用を促す。 ・毎月配布するプリントから世の中の変化を知り、自分の考え(意見)をまとめ発信させる。	・毎月の「配布プリントを読んで」では、メーカーされた常用漢字の間違いを訂正した上で次月に提出する生徒も若干名ではあるが見られるようになったので、人数が増えるよう啓発していく必要がある。 ・情報や機会を提供されても事態の先送りがされてしまい、正面から向き合う姿勢があまり見られなかった。今後は、自分自身と向き合い、何事も自分を知ることから始めるよう意識させる必要がある。
(3年学年会)	・生徒の能力・適性の自己理解と、先を予測した行動による進路希望の実現を目指す。	・生徒自身が自らの進路を主体的に考え、先を予測して行動し、より良い選択ができるように、適切な情報提供及び助言や指導に努める。	・面談や進路指導を通して、生徒自身の能力と特性を理解させ、自らの力で自分の進路を決定し実現に向けて努力させることができた。進路先の決定が遅れている生徒に対しても、学年会などで情報交換を行い適切に指導することができた。センターテストを受験する生徒に対しても補習等を行い授業では補えない部分を補った。担任会や学年会で情報交換を密に行い、協力体制を確立し生徒指導と進路指導を行うことができた。
生徒会活動 (生徒会課)	・「ユネスコスクール」認定校としてのESD活動を充実させる	・生徒会執行部が中心となってESD企画を立案し、全校生徒への取組を呼びかけ、充実した活動を目指す。 ・「ユネスコスクール」として、活動の様子を積極的に外部へ発信する。	・生徒会執行部が中心となってESD企画を立案し、全生徒による充実した取り組みが実現できた。 ・ユネスコスクールとして活動を、効果的に外部に発信できた。
教育相談 (保健課)	・教育相談体制の充実	・スクールカウンセラー来校日を活用する ・関係の職員と情報の共有を図りながら、適切な対応に努める	・問題を抱える生徒について、スクールカウンセラーに繋げることはできた。また、関係の職員間で情報の共有を図ることができた。しかし、早期に解決するケースが少なく、問題が長期化することが多かった。来年度以降もスクールカウンセラー来校日を活用し、教育相談体制の充実を図っていきたい。
P T A 行事 (総務課)	・教職員と連携を図り、会員の学校行事への積極的な参加を促し、P T A活動を活性化する	・P T A役員及び理事が主導して、P T A行事の運営ができるようにサポートする。 ・P T A活動への理解促進を図るため、積極的にPRする機会を設ける。	・きずなネットの登録者の増加に努め、保護者へ行事のPRをすることができた。 ・来年度に向けて魅力的な行事を企画するために、役員会・理事会で案を出し合い検討している。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
情報管理 (教育情報課)	・情報セキュリティに関する意識の向上	・2学期に教員向け「学校情報セキュリティ研修」を実施することができた。また、1月は情報化推進委員会にてセキュリティについての全職員の意識向上に努めた。	・情報セキュリティ研修では、出張等が重なる先生も多く、参加者が当初の予定を下回った。全職員の意識向上のためにも現職教育だけでなく、継続的な活動が必要である。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では将来のビジネスリーダーを育成する視点に立ち、各学科において求められる能力を育てるためのアクティブラーニングの教材開発とその実践に積極的に取り組むことができた。今後もより主体的で対話的な深い学びが実践されるよう全体で取り組んでいきたい。 ・タンザニアへ卒業生の体操服を送る「マライカの翼プロジェクト」や「書き損じはがきでの募金活動」の継続により、E S Dの取り組みが学校全体に浸透し、ユネスコスクール認定校として生徒の意識が向上した。 ・生徒指導面では、SNSによるトラブルの件数が増加傾向にある。今後も繰り返し啓発していくとともに家庭と連携し、継続的な指導を行っていきたい。 		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいきいきと楽しく活動できる学校づくり ・教職員にとってやりがいのある学校づくり ・保護者、地域にとって開かれた学校づくり
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・STEM教育を通して、ケース教材の開発やそのアクティブラーニングの手法について研究を進め、より主体的で対話的な深い学びが実践されるよう全体で取り組むことができた。 ・継続したE S D活動の取り組みにより、ユネスコスクール認定校としての生徒の意識は徐々に向上している。 ・SNSによるトラブルの件数が増加傾向にある。今後も繰り返し啓発していくとともに家庭と連携し、継続的な指導を行っていきたい。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・外部と連携した様々な取組を今後も継続し、活力ある学校づくりを心がける。 ・学校行事を活用した商業高校の魅力を発信するしていく。
その他 (学校関係者評価委員 から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の登下校の様子から愛商生の印象はとても良い。資格取得や生徒会行事等アピールできることはたくさんあるので、情報発信を積極的に行って行くべきである。 ・「働き方改革」について留意しなければならないため、外部の力をうまく活用するべきである。 ・学校行事等に男女とも一生懸命に取り組んでおり、学校が楽しいことが伝わってくる。元気が良く、挨拶ができ、よく指導されている。 ・SNS利用法等の新たな問題には新しい取組が必要である。 ・入試制度の変更により生徒募集に影響がでている様子であるが、制度改革についても働きかけが必要である。
学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期	<p>構成 保護者、地域連携・中高大連携・地域企業の関係者</p> <p>評価時期：10月、2月</p>